

ほほえみ

発行
姪北校区
人権推進協議会
事務局
〒970-2028 丁部20-28
姪北公民館内
Tel. 092-895-1075

令和7年度「西區人権を考える集い」に参加して

8月20日(水)、西市民センターで開催

テーマ LGTBTQの基礎知識と性別不合(トランスジェンダー)当事者の真実について

講師 黒部 美咲さん (当事者支援団体「レインボーハーモニー」代表)

はじめに基礎知識を学びましょう

【性別はいつまで決まるのでしょうか】

性別を構成する4つの要素とは

4つの頭文字を組み合わせて、SOGIEE(ソジー)またはSOGIESSC(ソジエススク)と呼ばれています。

①からだの性(戸籍や住民票に記載されている性)

②こころの性(自分の性別を自分でどう思うか)

③好きになる性(どういった人を好きになるか)

④表現する性(服装や言葉遣いなど、自分の性をどう表現するか)

性のあり方は、主にこの4つの要素の組み合わせで成り立っています。この組み合わせは多様で58種類ほどあります。

【LGBTQ+とは】

L...レズビアン(からだの性と好きになる性が女性)

G...ゲイ(からだの性と好きになる性が男性)

B...バイセクシャル(好きになる性が異性同士の両方)

T...トランスジェンダー(からだの性とこころの性が一致しない)

Q...クエスチョニング(こころの性や好きになる性を特定できない)

+...プラス(LGBTQ+だけでは表しきれない、多様な性のあり方)

LGBTQ+は、性的少数者(セクシャル・マイノリティ)を広く表す言葉のひとつでもあります。その割合は、人口の8~10%、左利きの人と同じ数です。

「自分の身近には当事者がいない」という言葉を聞くことがあります。いないのではなく、表に出せない、言えないのです。偏見があるから言えないのです。人は自分の価値観にないものは理解できません。わからないことは恐怖や攻撃、排除に変わり、差別をします。偏見をなくすためには、正しく学ぶこと、知ることが必要です。

今の日本の法律では、戸籍の性別変更や性別適合手術を受けるためには、いくつもの要件があり、その要件を満たすのは高いハードルとなっています。戸籍の性別変更をするためには、家庭裁判所での手続きが必要で、「生殖腺がない、または生殖機能を永続的に失っていること」「2人以上の医師により、性同一性障害であることが診断されていること」など6つの要件を満たす必要があります。性別適合手術を受けるためには「希望する性別としての実生活経験が必要」「ホルモン療法を行っていること」などが求められています。

黒部さんからの言葉です。

当事者と出会ったときは、その人の心の性別に寄り添った対応をしてください。カミングアウトされたとき、「話してくれてありがとう」の言葉を伝え、最後までちゃんと話を聴いてください。否定や決めつけをせずに聴いてください。カミングアウトはとても勇気がいることで、あなたを信頼している証です。ただし、どんな場合でも、本人の同意なく他の人に口外しないでください(アウティング)。例えばそれがよかれと思つてのことだとしても。アウティングは、ときに人の命を奪います。

全てを理解することは難しくても、理解しようとする努力と相手にできるだけ寄り添う気持ちをもちて接していただくと幸いです。

全ての人権問題につながる大事なことです。

【講演を聞いて】

当事者の困りごとで、「トイレ」「更衣室」のことをよく聞きます。最近では、ほとんどのトイレに、みんなのトイレ(多目的トイレ)が設置されていますが、更衣室は男性・女性表示しか見かけません。社会の仕組みやあり方は、多数派(マジョリティ)が決めています。何に困っているのか、気づき変えていきましょ。そして、誰もが自分らしく生きられる社会にしていましょ。

「第33回人権啓発地域推進協議会全市交流会」報告

令和7年10月23日 早良市民センターで開催

田隈校区人権推進協議会 報告

「思いやり心はくぐくむる」と田隈

人権劇「椿水路物語」

田隈校区人権推進協議会(以下「田隈人権協」)は、平成元年7月1日に設立しました。田隈人権協設立から10周年記念に、人権劇「陽の如く」を公演、その3年後に劇団「田隈塾」が誕生し、子どもから高齢者まで多くの方が、役者・裏方と様々な参加協力をしながら、地域住民と共に歩んできました。

さて、今回公演された人権劇「椿水路物語」のあらすじです。

現在の田隈校区の椿水路の橋の上で、長老が子どもたちに、水路ができるまでの昔話を聞かせることから始まります。

周辺より地形が高く砂地のため、水の確保が困難な田隈では、雨の少ない年は、川の上流と下流で、水を巡って近隣の村同士の争いが絶えませんでした。江戸時代、水不足を解消するために、村々が話し合い、農民の手で全長7km以上に及ぶ水路を、一冬で開削した苦労を描きます。水路ができあがった後も農作物の増産を聞きつけ、年貢を上げる代官に村人が団結して闘争や、言い争いをする農民たちを長老がいさめ、水の分け合い方や用水路保全の決まりを定めていく様子を描きながら、命の尊さや人権尊重の意識を啓発しています。

37年目の令和7年度、田隈人権協は同和問題を中心として取り組んでいられました。田隈塾は、いじめも休むことなく、子どもから高齢者まで地域ぐるみで何度も練習を重ね、劇を作り上げられています。

【実践報告を聞いて】

田隈人権協は、住民同士の「コミュニケーション」を図り、人権について考える機会を与え根付かせる良い取り組みをされていると思います。

最近では、誰でもネットを利用することができ、事実を確かめることなく軽い気持ちで、誹謗中傷や選挙妨害などを行っています。

また世界に目を向けると、自国の利益に反する国を攻撃するニュースが流れ、世界を巻き込む戦争が起きているのではないかと思ったりもします。

私たちにできることは、まず家族を思い、隣人を思うことから始め、相手の立場になって考えることではないでしょうか。ひとり一人の小さな心が、大きなうねりになり、誰もが幸せであることを願います。



第54回「人種を尊重する市民の集い」に参加して

12月4日(木)、西部交流地域センターで開催

「外国人と仲良く暮らせる日本をめざして」

ピーター・フランクルさん
(数学者・大連市人)

講師プロフィール



1953年ハンガリーでユダヤ人として生まれる。祖父母はアウシュビッツ収容所で殺され、自身も差別を受けた経験がある。

1971年国際数学オリンピック金メダル受賞。1977年博士号取得。1979年フランスに亡命。1988年から日本在住。ハンガリー学院メンバー。算数オリンピック大会会長。日本ジャグリング協会名誉顧問。語学にも長けており12ヶ国語を操る。その才能を活かし110か国以上を訪問している。現在は人生を楽しくするコツ等をより多くの日本人に伝えたいと、講演活動に力を入れている。

「外国人の僕だからこそわかる日本と日本人」

日本人は完璧主義、仕事は丁寧で品質の高いものをつくります。努力している人は周りに認められます。頑張っているひとはいいと云われます。よく働きます。でも、内と外が違ふことがかなりあります。

花見のとき、自分たちの仲間だけで楽しみ、周りと交流しない光景を見かけます。

自分の家に人を呼ばない人が多いと思います。僕は20年同じところに住んでいて、あいさつをするけど、隣人の家に一度も呼ばれたこともないし、一緒に食事をしたこともありません。

「真の国際人をめざすためには」

英語を勉強して話せるようになったからといって、国際人になれるわけではありません。

国際化は頭ではなく心の問題、人に出会ったときの態度が大切です。近寄らない態度は国際人とは呼ばれません。話しかける、何らかの形で近づこうとすると共通点が見つかり、関係を築くことができます。

出会うすぐ声をかけるのが自然です。自然に声をかけると答えてくれます。

僕は、コミュニケーションで働いているネパールやスリランカの人に、スマートフォンでその国のあいさつを調べて話しかけます。ちょっとしたことで相手の心の入口を開くことができます。相手の考えや経験を聞くことは面白いことです。話しかけて友好的でないこともあります。相手の都合もあるので、失敗したと思わなくていいのです。

日本人は奥ゆかしいのはわかります。でも、人に会って声をかけなかったら、自分はその出会いをムダにしてしまったと思ってしまう。

真の国際人になるためには寛容な心が必要です。まずは見知らぬ日本人同士で、うまくコミュニケーションできるようにすることが大事です。

あなたが外国に行くとき、好きな国と嫌いな国どちらを選びますか。好きな方を選びませんか。日本にやってくる外国人は、日本に好意をもっている、日本が好き、関心をもっていることを頭の片隅に入れてほしいです。

「講演を聞いて」

ピーター・フランクルさんは、「外国人ではなく、ひとりの人としてつきあってほしい」と言われました。

まず、あいさつをしようと思います。相手の国の言葉であいさつができると、もつといいのですが。

自分が外国にいることを想像しました。日本語であいさつをもらえると、思わず笑顔になり、幸せな気持ちになれると思います。

「アンコンシャス・バイアスって何ですか」

「常識とは、十八歳までに身につけた偏見のコレクションである」。これは物理学者アインシュタインの言葉です。

私たちは、生まれたときから、周りの大人の考え方や生活環境に影響されて、無意識に思い込んでいることがたくさんあります。それは、アンコンシャス(無意識の)バイアス(思い込み)と呼ばれます。

例えば、「男は仕事、女は家庭」は、性別による役割の固定化を表す典型的なジェンダーバイアスです。昔は、男は黒や青、女は赤やピンクなど、性別による色の固定化も普通でした。

しかし、最近では、ランドセルの色はカラフルになり、洗剤や食品のパッケージに男性が出演しているのを見かけるようになってきた。少しずつ固定観念にとらわれない時代になりつつあります。

アンコンシャス・バイアスは、誰でも無意識に身につけてしまうもので、それ自体が悪いものではありません。大量の情報を脳が処理するための「近道」であり、脳のストレス回避でもあるのだそうです。

ただし、問題もあります。例えば、職場の同僚(男性)に「そろそろ結婚は？彼女とかいないの？」

「小さなお子さんのいる女性にだけ」

「まだ仕事復帰は早いんじゃない？子育てに専念したほうがいいよ」

見かけから外国にルーツがあると思われる人に「日本語上手ですね。どこ出身ですか」

などと言葉をかけたことがあります。

もし相手が同性愛者だったら、仕事復帰を望んでいる人だったら、見かけは外国人でも日本で生まれ育った人なら、そのセリフをどう感じるでしょうか。無意識で悪意のない発言でも、相手を傷つけることがあるのです。

差別は偏見から、偏見は思い込みから生まれます。私たちが「あたりまえ」と思っていることは、実は自分の思い込みかもしれない。「普通は、当然」という言葉が出るのがあれば、本当にそうなのか、時には自分の言葉や行動を振り返ってみませんか。個人や社会の意識が変われば、誰でも生きやすい世の中に近づいていくのだと思います。

朝、子どもたちが歩く通学路に出かけるようになって、20年過ぎました。

1週間に3回、黄色い旗を持って、見守りをします。

小さな声であいさつをして頭を下げていく子、友だちとおしゃべりに夢中な子、お父さんお母さんと一緒に楽しそうに歩いている子、いろいろな子どもたちが通ります。

子どもたちのうしろ姿を見送ったあとは安心します。

これからも、車や自転車が来た交差点に立ち、子どもたちの安全を願い、黄色い旗を持って見守っていこうと思います。